

施策評価シート

幹事部局

政策企画局

施策の名称	Ⅲ-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用
施策の目的	日本を代表し、世界に誇ることのできる数々の地域資源を活用した地域振興を進めます。
施策の現状 に対する評価	<p>①(島根が世界に誇る歴史的遺産及び自然環境の活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 島根県には、世界文化遺産の石見銀山遺跡や隠岐ユネスコ世界ジオパークなどの歴史的遺産、大山隠岐国立公園、ラムサール条約に登録された宍道湖・中海の自然環境など、日本を代表し、世界に誇ることができる地域資源がある。 ・ これらの地域資源は、観光やレジャーの振興、交流人口の拡大、地域の活性化に寄与しているが、地域資源の持つ魅力や価値の発信については、認知度の広がり課題となっている。 ・ 観光面でも、コロナ禍の影響もあり滞在の長期化や観光消費額の増加に、十分には繋がっていない。 ・ 県内では、地元市町村の学校教育の場で、地域資源を活用した授業や体験学習が積極的に行われ、優れた地域資源を有する地元への誇りの醸成に寄与している。 ・ また、コロナ禍の影響から、小中学生の修学旅行について、県内へ行き先を変更した学校があり、地元以外の県内の地域に実際に訪れ、文化、自然に触れることにより島根への愛着や誇りを育む機会となり定着してきた。 <p>(前年度の評価後に見直した点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ フォトしまねにおいて、石見銀山遺跡、隠岐ユネスコ世界ジオパーク、宍道湖・中海、大山隠岐国立公園の歴史的遺産や自然環境について、その地域資源の魅力や価値を、一体的にPRを行った。 ・ 国立公園を含む自然公園の誘客促進を図るため、体験ツアーのPRや旅行商品造成の推進を目的とした、旅行事業者対象のモニターツアーを、県内全域に拡大した。 ・ 隠岐ジオパークの体験学習等について、ジオパークの認知度向上や観光誘客の取組の強化のため、(一社)隠岐ジオパーク推進機構の事業として一体的に実施できるように支援を行うこととした。
今後の取組 の方向性	<p>①(情報発信)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれが持つ歴史的遺産や自然環境の魅力や価値を更に高めることを基本としながら、情報に対するアクセスを改善するため、一体的な広報や教育場面での活用、また、コロナ禍に対応したオンライン配信を活用するなど情報発信を工夫・強化し、県内外での認知度を高め、交流人口の拡大と地域の活力に繋げる。 <p>②(誘客の取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 観光への活用については、引き続き首都圏のPR会社と連携し、テレビや雑誌など各種メディアでの露出を高め、各資源の認知度の向上や来訪意欲の喚起を図るとともに、地域資源を活かした体験コンテンツや旅行商品造成の取組を支援し、受入環境の充実を着実に進める。

事務事業の一覧

施策の名称		Ⅲ-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用				
	事務事業の名称	目的		前年度の 事業費 (千円)	今年度の 事業費 (千円)	所管課名
		誰(何)を対象として	どういう状態を目指すのか			
1	未来に引き継ぐ石見銀山保全事業	県内外の人々	世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の価値を高め、適切に保存整備し未来に継承しつつ、その価値や魅力について情報を発信し認知度の向上を図る。	64,728	83,364	文化財課
2	島根の歴史文化活用推進事業	県内外の人々	しまねの豊かな歴史文化の魅力を広げ、県民の郷土への自信を培う。県外の方々には、しまねの歴史文化に関心をもってもらうことで、人々の交流を促進する。	21,968	43,488	文化財課
3	隠岐ユネスコ世界ジオパーク活用推進事業	隠岐地域に住む人、隠岐地域を訪れる人	隠岐ユネスコ世界ジオパークの取組を通じて、持続可能な経済活動や文化活動を推進することにより、隠岐地域の活性化と振興を図る	64,722	142,739	自然環境課
4	しまねの自然公園満喫プロジェクト推進事業	外国人利用者をはじめとした県内自然公園の利用者	県内の自然公園の活用を図り、外国人利用者をはじめとした公園利用者の増加を目指す	109,926	136,205	自然環境課
5	穴道湖・中海賢明利用推進事業	県民、民間団体等	ラムサール条約湿地である穴道湖・中海の環境を保全し、賢明利用により地域の活性化を図るとともに、両湖の認知度向上を図り地域の誇る財産として次世代へ引き継いでいく。	5,039	8,669	環境政策課
6	「ご縁の国しまね」観光総合対策事業	観光ニーズを持つ県外在住者および県内の観光事業者	県外在住者：「ご縁」等の島根のイメージを発信することで、島根に興味を持ってもらい、来訪してもらう。 観光事業者：「ご縁」といった島根のイメージに沿った観光商品や受入体制をつくる。	277,369	353,761	観光振興課
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		未来に引き継ぐ石見銀山保全事業			
目的	誰(何)を対象として	県内外の人々	事業費 (千円)	令和3年度の実績額	令和4年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の価値を高め、適切に保存整備し未来に継承しつつ、その価値や魅力について情報を発信し認知度の向上を図る。		64,728	83,364
			うち一般財源 (千円)	64,028	82,364
令和4年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ研究では、港町「温泉津」に焦点をあて、石見銀山が16世紀の世界経済に影響を与え、国内外との交流が盛んであったことがなどが明らかになったことについて、今年度は登録15周年記念事業として、「世界遺産センター」だけでなく、大田市と連携して「石見銀山資料館」「温泉津観光案内所(ゆう・ゆう館)」の3館において事業として企画展を同時開催する。 ・企画展の内容にあわせ、港町「温泉津」を取り上げた講演会を県外の方向けに開催することとし、紙媒体以外にSNS等のインターネット媒体を活用して周知を図る。 ・次年度から始めるテーマ研究については、登録20周年・発見500年に向けて一般の方の関心を高めることを意識したものとし、上半期にはテーマを確定する。 ・石見銀山遺跡の全容究明及び価値を高める基礎調査研究(考古学・歴史民俗学・自然科学)を実施し、成果について調査報告書を刊行するとともに、HPに掲載する。 ・大田市や地元関係機関等と連携し、史跡等の保存整備や落石対策措置等の支援を継続して行う。 				
令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・県外の方向けの講座開催や、大田市及び関連団体等が行う石見銀山遺跡の普及啓発事業についてSNSやメディアの活用等により、新規の来客層を開拓する。 ・専門的な研究成果を一般や子供たちにわかりやすく伝えるよう、展示や座学に加えて体験を取り入れるなど工夫する。 				
1	上位の施策	Ⅵ-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策	Ⅲ-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	石見銀山遺跡に関する調査研究・保存整備の成果が公開された回数【当該年度4月～3月】	目標値		10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	回	半年度値
		実績値	8.0	8.0	8.0					
		達成率	—	80.0	80.0	—	—	—		
2	講座等での参加者アンケートにおいて石見銀山遺跡への興味・関心が高まったと感じた人の割合【当該年度4月～3月】	目標値		95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	%	半年度値
		実績値	91.2	97.0	94.6					
		達成率	—	102.2	99.6	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産石見銀山遺跡の首都圏での認知度(しまねの観光認知度調査)は、H30年度32.9%、R元年度33.9%、R2年度34.6%、R3年度35.0%と推移 ・石見銀山の入込客延べ数は、H30年246,300人、R元年265,300人、R2年171,000人、R3年度165,400人と推移 ・県外講座(オンライン配信申込者数1066人)、県内講座(対面聴講者234人)、世界遺産センター企画展(10/27～1/24 観覧者数6,979人) 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産センターでの企画展の観覧者のうち、石見銀山遺跡への興味関心が高まった、やや高まったとした割合は95%で認知度が向上している。 ・県外講座のオンライン配信により、遠隔地を含めて参加者数が増加し、より多くの人々に情報が届いている。 ・大田市が実施する史跡等の保存整備、落石防止等の安全対策、伝建地区の修理は着実に進んでいる。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・従来の調査研究は、登録時のICOMOSの指摘に対応するため、専門性の高い学術的な視点から進め、研究成果を報告書として刊行して実績を重ねてきた。その一方で、世界遺産センター入館者など一般の方々への情報発信手法・内容を分かりやすくする取組はさらなる工夫が必要である。 ・講座のオンライン配信による受講者の拡大は試行中であり、さらなる改善の余地がある。 ・講座情報の周知や、これまで受講経験のない方への働きかけが不足しており、石見銀山ファンの新規開拓が課題である
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの研究テーマの設定や発信は、ICOMOSから提示された課題解決に比較的重点を置いていた。そのため情報発信内容は研究者あるいは関心の高いコア層向けのもが多く、一般の方にわかりやすく発信する機会や発信手法は限定的であった。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・R元年度に調査研究の見直しを行い、ICOMOSからの課題も踏まえつつ、一般の方にわかりやすく伝わりやすいテーマを設定した調査研究を開始する。R5年度から始めるテーマ研究では、登録20周年・発見500年での情報発信を見据え、一般の方々に分かりやすく石見銀山遺跡の実態を伝えるテーマを検討し、着実に調査研究を実施する。 ・世界遺産センターにおいて、テーマ研究及び基礎調査研究の成果をわかりやすく展示公開する企画展を毎年、定期的に開催する。 ・講座の周知は、SNSのほか様々な媒体を活用するとともに、内容は、新たな受講者の開拓や石見銀山への来訪につながる企画を進める。 ・大田市や地元関係機関並びに他部局との連携を進め、史跡等の保存整備の支援を継続していく。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		島根の歴史文化活用推進事業			
目的	誰(何)を対象として	県内外の人々	事業費 (千円)	令和3年度の実績額	令和4年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	しまねの豊かな歴史文化の魅力を広く伝え、県民の郷土への自信を培う。県外の方々には、しまねの歴史文化に関心をもってもらうことで、人々の交流を促進する。		うち一般財源 (千円)	21,968
令和4年度の取組内容	(1) 県民参加型事業(講座) ①島根の歴史文化講座+オンライン ②隠岐国巡回講座 ③石見国巡回講座 (2) 県外における情報発信 ①古代出雲文化シンポジウム ②日本遺産の魅力発信オンラインツアー (3) 他県との連携事業 ①古代歴史文化賞 ②古代歴史文化に関する共同調査研究(14県事業):大阪歴史博物館での企画展開催				
令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・主催する講座を会場とオンライン併用のハイブリッド方式で行うことで、より幅広い人々に発信する。 ・県内外の人々に歴史文化への関心を高めるため、昨年度新規に開設したポータルサイトに多様で魅力あるコンテンツを制作、掲載し、継続的に発信する。				
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	III-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用
2	上位の施策	I-2-(2) 観光の振興	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	島根の歴史・文化に関する講座・シンポジウム等参加人数【当該年度4月～3月】	目標値		5,000.0	6,000.0	6,000.0	6,000.0	6,000.0	人	単年度値
		実績値	4,967.0	5,800.0	6,643.0					
		達成率	—	116.0	110.8	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		講座・シンポジウム参加者数内訳 R2 総数5,800名 うち会場1,181名(20%)、オンライン4,619名(80%) R3 総数6,643名 うち会場1,170名(18%)、オンライン5,473名(82%)								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・新型コロナウイルス感染症の影響が長期間継続していることから、前年度に引き続きオンライン配信や会場とオンライン併用で講座を実施した。オンライン配信で開催した古代出雲文化シンポジウムについては、講演、研究報告やパネルディスカッションなど各コーナーを約15分間にまとめ、8本立て構成にしたことで、分かりやすく多くの視聴者に興味を持ってもらえ、視聴人数の増加につながった。 ・全ての講座を会場とオンライン併用にしたことで、講座参加へのハードルが下がり、より幅広い層の方々に参加、視聴して頂けるようになった。
課題分析	① 課題	・島根の歴史文化講座のオンライン配信受講者は、関東圏45%、中国地方43%(うち島根県30%)でほぼ9割を占める。古代出雲文化シンポジウムはアンケート回答者の傾向であるが関東圏が46%に及ぶ点は変わらない。 ・オンライン配信受講者の年齢層は、60・70代が60%を占め、50代は15%、40代は10%、それ以下は5%に満たない。会場での受講者数に比較すれば、オンライン受講者数は50代以下でも増えており、成果は上がりつつあるが、多いとはいえない。
	② 原因	・オンライン配信受講者が関東圏で多いのは、首都圏の新聞に広告を出していることが大きい。関西圏などその他の地域には十分な広報ができていない。 ・40代以下の若い層が歴史文化へ興味をもつような取り組みが、まだ十分でない。
	③ 方向性	・知事部局(観光振興課など)や島根県観光連盟、古代歴史文化協議会などと連携し、首都圏そして、それ以外の地域に対してシンポジウムなどの情報が広くいわたるようにする。 ・新ポータルサイトを活用して、歴史に詳しくない方でも楽しんでいただけるような話題など、様々な情報を発信することで、40代以下の方の歴史文化に対する興味関心を喚起する。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		隠岐ユネスコ世界ジオパーク活用推進事業			
目的	誰(何)を対象として	隠岐地域に住む人、隠岐地域を訪れる人	事業費 (千円)	令和3年度の実績額	令和4年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	隠岐ユネスコ世界ジオパークの取組を通じて、持続可能な経済活動や文化活動を推進することにより、隠岐地域の活性化と振興を図る		64,722	142,739
令和4年度の取組内容		(一社)隠岐ジオパーク推進機構と連携し、地域振興、観光振興、保全保護、調査研究、教育・人材育成のための取組を実施 ①隠岐ジオパーク推進機構の運営経費の一部負担 ②隠岐ユネスコ世界ジオパーク内のジオサイトの施設整備 ③県内外への情報発信、他のジオパークやそれを有する自治体や運営組織などと連携した認知度向上の取組 ④拠点施設・中核施設の整備を支援(隠岐の島町、海士町) ⑤隠岐ユネスコ世界ジオパークでの島根の子どもを対象とした体験学習の実施 ⑥隠岐ユネスコ世界ジオパーク再認定審査に向けた対応			
令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと		令和4年度からDMOとして(一社)隠岐ジオパーク推進機構が発足したことにあわせ、他自治体との連携事業や体験学習について、ジオパークの認知度向上や観光誘客の取組の強化のため、県が直接執行する事業から(一社)隠岐ジオパーク推進機構の事業として一体的に実施できるように支援を行うこととした。			
1	上位の施策	Ⅵ-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	Ⅲ-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用
2	上位の施策	I-2-(2) 観光の振興	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会ホームページのPV数【当該年度4月～3月】	目標値		280,000.0	360,000.0	440,000.0	520,000.0	600,000.0	PV数	単年度値
		実績値	214,626.0	200,437.0	238,304.0					
		達成率	—	71.6	66.2	—	—	—		
2		目標値								%
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> 平成30年1月にユネスコ世界ジオパークとして再認定。次回再認定は令和3年度がコロナウイルス感染症の影響で令和4年度に延期 隠岐地域の観光入り込み客数H30年度168千人→R元年度167千人→R2年度92千人→R3年度123千人(観光動態調査結果) 交流人口数(推定入島客数)H30年度124千人→R元年度123千人→R2年度66千人→R3年度→72千人 隠岐を訪れる外国人観光客数H30年度911人→R元年度R元年度1133人→R2年度96人→R3年度38人(いずれも隠岐汽 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度のユネスコ世界ジオパークの再認定に向けて、平成29年7月の再認定審査における指摘事項(展示施設の整備、誘導標識・サイト看板の整備、地質遺産の教育促進等)はいずれも対応中または対応済 隠岐DMO組織の立ち上げ支援を実施
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> ジオパークそのものの認知度向上が進まず、隠岐ユネスコ世界ジオパークの認知度もまだ低い 隠岐での滞在を延ばすような体験コンテンツやツアーなどが不足している (一社)隠岐ジオパーク推進機構(隠岐DMO)が立ち上がったところであり、新たな推進体制をベースとして具体的な事業に取り組むことが必要
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> 隠岐ユネスコジオパークの魅力ある自然景観や歴史などが観光資源として活用できていない 災害により施設の利用に支障があるため、活用できないジオサイトがある ホームページ、インターネット、SNS等を利用した情報発信が不十分 (一社)隠岐ジオパーク推進機構基本構想にもとづく行動計画が未策定
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> (一社)隠岐ジオパーク推進機構が中心となり、4町村や県など関係機関と連携し、隠岐ユネスコジオパークの魅力向上のための環境教育・学術研究・ジオサイト整備や、来島者の満足度向上のための観光誘客の取り組みの強化、など具体的な事業に取り組む。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		しまねの自然公園満喫プロジェクト推進事業			
目的	誰(何)を対象として	外国人利用者をはじめとした県内自然公園の利用者	事業費 (千円)	令和3年度の実績額	令和4年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	県内の自然公園の活用を図り、外国人利用者をはじめとした公園利用者の増加を目指す		109,926	136,205
			うち一般財源 (千円)	35,804	28,547
令和4年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の自然公園への誘客促進に向け、自然公園を活用した体験プログラムの開発やガイド養成など、民間事業者等の取組を支援 ・国立公園などの県内自然公園への誘客を目的とした、デジタルマーケティングによる国内外へのプロモーション ・自然公園の魅力発信のため、県内自然公園の紹介動画の作成及びHPによる発信と、広域モニターツアーによる体験メニュー化の支援 ・受入環境の向上のため、国立公園内の遊歩道や標識等の再整備、景観阻害する樹木の伐採 				
令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・広域モニターツアーの対象を県内全域に拡大し、体験のメニュー化を推進 ・リマーケティングリストを活用したデジタルマーケティングにより、より自然に関心のある層へアフターコロナを見据えたプロモーションを展開 				
1	上位の施策	Ⅵ-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	Ⅲ-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用
2	上位の施策	Ⅰ-2-(2) 観光の振興	4	上位の施策	Ⅲ-3-(1) 稼げるまちづくり

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	大山隠岐国立公園関係市町村及び周辺宿泊拠点の外国人宿泊者推計【前年度1月～当該年度12月】	目標値		61,000.0	21,000.0	40,000.0	65,000.0	85,000.0	人	単年度値
		実績値	64,997.0	7,589.0	3,306.0					
		達成率	-	12.5	15.8	-	-	-		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> ・大山隠岐国立公園の区域が含まれる市町村内の宿泊者数を環境省が推計 ・環境省の数値から関係市町村(松江市、出雲市、大田市、美郷町、飯南町、隠岐の島町、海士町、西ノ島町、知夫村)と島根県東部(安来市、雲南市、奥出雲町)の宿泊者数を推計(過去の推計数値 H28 35,761人、H29 37,043人、H30 47,470人、R元 64,997人、R2 7,589人) ・令和3年島根県観光動態調査結果の外国人宿泊客延べ数は、9,217人(前年と比べ36.8%減少) 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・自然公園を活用した体験プログラムの開発やガイド養成などの取組を支援する補助金の公募を実施し、3事業を採択した ・自然公園等の遊歩道や案内看板の整備を実施し、受入環境の向上が進んでいる ・自然公園の魅力ある情報を掲載するため、ホームページの改修を行った ・国立公園などの豊かな自然を活用した体験ツアーのPRと旅行商品造成により誘客促進を図るため、旅行事業者を対象としたモニターツアーを行い、ツアー実施などの成果がでている
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で行われる自然体験プログラムが誘客になかなか結びついていない ・県内の自然公園の認知度が低い ・一部の地域では回復が見られるものの、新型コロナウイルス感染症による影響で来訪者は伸び悩んでいる
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> ・取組を支援する補助金の情報が、対象となる事業者等に広く認識されていない ・魅力的な体験プログラム造成が進んでおらず、また来訪者が長期滞在して楽しめるメニューが少ない ・自然体験に興味があるターゲットに情報が届いていない
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ウィズコロナを前提とした、商品の磨き上げや販売促進等、民間団体の取組を誘客につなげていくため、関係機関と連携し、補助金による支援を推進する ・自然公園の効果的なPRや広報を行い、国内外への情報発信を強化する

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

環境政策課

事務事業の名称		宍道湖・中海賢明利用推進事業			
目的	誰(何)を対象として	県民、民間団体等	事業費 (千円)	令和3年度の実績額	令和4年度の当初予算額
	どうい状態を目指すのか	ラムサール条約湿地である宍道湖・中海の環境を保全し、賢明利用により地域の活性化を図るとともに、両湖の認知度向上を図り地域の誇る財産として次世代へ引き継いでいく。		5,039	8,669
			うち一般財源 (千円)	1,032	4,269
令和4年度の取組内容	・地域住民が参加する人の五感による湖沼環境評価や小中学生を対象とした流入河川調査を実施し、宍道湖・中海への興味関心と環境保全意識の向上を図る。 ・ラムサール条約の理念である「保全再生」「賢明な利用」「交流学习」を推進するため、沿岸市での一斉清掃や水鳥観察会、子どもラムサール交流会等を実施するとともに、宍道湖・中海の魅力を発信する動画を作成し、配信するなど情報発信を行う。 ・コウノトリ、トキをはじめとして多様な生物が生息する環境の保全再生及び地域活性化に取り組むことを目的に、民間団体や関係自治体を構成員とする協議会を設置し、協議会の取り組みを支援する。				
令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・自転車で地域の観光スポットを巡りながら地域の魅力を体験する水鳥観察会を開催した。 ・参加者がそれぞれのペースで中海の自然の恵みや魅力に触れることができる日程を設定した中海バイク&ランを開催した。 ・大型水鳥類まとめサイトを構築し、情報発信の一元化を図った。				
1	上位の施策	Ⅲ-2-2(2) 世界に誇る地域資源の活用	3	上位の施策	
2	上位の施策	Ⅵ-4-1(1) 豊かな自然環境の保全と活用	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	宍道湖・中海賢明利用スポット来訪者数 【前年度1月～当該年度12月】	目標値		276,000.0	282,000.0	288,000.0	294,000.0	300,000.0	人	単年度値
		実績値	332,438.0	231,630.0	271,823.0					
		達成率	—	84.0	96.4	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		①五感による湖沼環境調査 モニター数(人・団体) R元:62 R2:85 R3:87と推移 ②小中学生等による流入河川調査 実施団体数(団体) R元:32 R2:37 R3:44と推移 ③中海宍道湖一斉清掃 参加人数(人) R元:6,665 R2:中止 R3:908と推移 ④ラムサール関連イベント 実施イベント数(回) R元:1 R2:1 R3:1と推移 ⑤大型水鳥関連イベント 実施イベント数(回) R元:8 R2:5 R3:8と推移 ⑥賢明利用関連普及啓発 広報数(回) R元:6 R2:10 R3:15と推移								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・宍道湖・中海一斉清掃など島根・鳥取両県連携事業や宍道湖・中海の魅力を伝える映像やホームページによる情報発信などにより、宍道湖・中海の価値や魅力について一定の理解がされている状況
課題分析	① 課題	・宍道湖・中海の魅力価値が十分理解されているとはいえない。 ・五感による湖沼環境評価の新規参加者数の増加が少なく、また、調査地点によりモニター数の偏りが生じておりモニター不在地点が生ずる懸念がある。
	② 原因	・住民に宍道湖・中海の価値や魅力が十分に伝わっておらず、賢明利用に関する情報も少ない。 ・五感による湖沼環境評価の周知が十分でない。
	③ 方向性	・マリンスポーツ体験の映像制作や観光部局と連携した事業の取組などにより、宍道湖・中海の価値や魅力を発信し地域の活性化を図る。 ・五感による湖沼環境評価について、取組状況の紹介や、電子媒体を活用した応募や報告方法など参加しやすい工夫する。 ・国、関係市、関係部局と連携して、コウノトリ、トキをはじめとして多様な生物が生息する環境保全の取組を進めるとともに、情報発信を強化する。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要	担当課 観光振興課
------------------	-----------

事務事業の名称		「ご縁の国しまね」観光総合対策事業			
目的	誰(何)を対象として	観光ニーズを持つ県外在住者および県内の観光事業者	事業費 (千円)	令和3年度の実績額	令和4年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	県外在住者:「ご縁」等の島根のイメージを発信することで、島根に興味を持ってもらい、来訪してもらう。 観光事業者:「ご縁」といった島根のイメージに沿うような観光商品や受入体制をつくる。		277,369	353,761
令和4年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> PR会社等を活用したメディアへの営業活動の強化 観光キャラクターしまねっこを活用した情報発信 歴史文化をテーマとしたセミナー等の実施 出雲、石見、隠岐の圏域ごとの観光素材を活用した着地型旅行商品の造成、マイクロツーリズムを意識した誘客対策の実施 県内への教育旅行やワーケーションの誘致 世界遺産や日本遺産などの地域資源を活用した観光地域づくりの支援 JR、NEXCO等の交通機関、他県等との広域連携による誘客促進 ※新型コロナウイルス感染症拡大の状況に応じて実施 				
令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> 日比谷しまね館を活用した営業及びオンラインでの営業など、戦略的・積極的なメディア営業活動を強化 民間事業者等による観光地域づくりの支援を強化 コロナ禍で伸びている県内への教育旅行やワーケーションの取組を強化 				
1	上位の施策	I-2-(2) 観光の振興	3	上位の施策	Ⅲ-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用
2	上位の施策	Ⅲ-3-(1) 稼げるまちづくり	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	観光入込客延べ数【前年度1月～当該年度12月】	目標値		32,800.0	24,664.0	29,182.0	33,700.0	34,000.0	千人	単年度値
		実績値	32,990.0	21,318.0	20,842.0					
		達成率	—	65.0	84.6	—	—	—		
2	宿泊客延べ数【前年度1月～当該年度12月】	目標値		3,730.0	2,978.0	3,399.0	3,820.0	3,850.0	千人	単年度値
		実績値	3,782.0	2,424.0	2,628.0					
		達成率	—	65.0	88.3	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		しまね観光総合支援事業補助金 採択事業数 R1:14件/R2:11件/R3:5件 周遊バス運行 R1:4コース/R2:4コース/R3:4コース 観光コーディネーター支援対象団体 R1:4団体/R2:1団体/R3:1団体(R3年度で事業終了) しまねの観光認知度調査①旅行意向割合 R3年度1回目:68.4% 2回目:66.1% ②ご縁の国しまね認知度 R3年度1回目:15.3% 2回目:14.9%								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> しまねっこの様々なSNS(ツイッター、インスタグラム等)を活用したキャンペーンの実施や動画作成、しまねっこのリニューアルなど、情報発信を強化 包括業務提携企業(佐川急便、ローソン)と連携し、しまねっこのコラボ企画を実施 パブリシティによる露出件数:287件(テレビ:13件、雑誌:5件、WEB:269件) 観光コーディネーターの配置など、地域DMO体制移行に向けた支援を実施 教育旅行の誘致(R3:121校)
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> 認知度向上に効果的であるテレビへの露出が少ない 観光プロモーションのテーマである「ご縁」等を体感できる観光地・観光商品が少なく、認知も低い 個人旅行者の交通アクセスが不便 石見・隠岐地域への県外からの誘客ルートや、県東部と繋がる周遊ルートが未整備
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染拡大による、メディアへの営業活動の減少及び地方ロケの減少 観光地、観光商品をつくり、磨き上げ、販売に繋げるノウハウ、仕組みが不十分 旅行会社、個人旅行者のニーズの把握が不十分 来県する1次交通、観光地の周遊に利用する2次交通とも不便
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> 各メディアに対し、コロナ禍においても対応できる戦略的な営業活動を展開 自然、文化歴史、伝統芸能、食、温泉などメディアのニーズに応じた観光素材の掘り起こし、情報収集の強化 旅行商品として成立、定着が見込まれる新しい取り組みについて、更なる掘り起こしと伴走型支援の強化 教育旅行、ワーケーション、サイクリングなど、今後の伸びが見込まれる分野の取組強化 石見・隠岐地域(世界遺産、日本遺産、隠岐ジオパークなど)の特色ある観光資源を活用した旅行商品づくりや情報発信の強化 1次交通、2次交通を担う交通機関と連携した誘客プロモーションの実施

事務事業評価シートの別紙

事務事業の名称	「ご縁の国しまね」観光総合対策事業
---------	-------------------

「上位の施策」が5以上ある場合のみ記載

5	上位の施策	
6	上位の施策	
7	上位の施策	
8	上位の施策	

「KPI」が3以上ある場合のみ記載

	KPIの名称	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上 分類
			目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率		
3	観光消費額【前年度1月～当該年度12月】	令和元年度	1,330.0	1,026.0	1,223.0	1,420.0	1,450.0	億円	単年度 値	
		令和2年度	1,301.0	752.0	698.0					
		令和3年度	—	56.6	68.1	—	—			
4	島根県への旅行意向割合【当該年度8月時点】	令和元年度	61.8	63.2	64.6	66.0	67.3	%	単年度 値	
		令和2年度	60.4	68.4	68.4					
		令和3年度	—	110.7	108.3	—	—			
5	ご縁の国しまね認知度【当該年度8月時点】	令和元年度	16.5	16.7	16.9	17.2	17.5	%	単年度 値	
		令和2年度	16.3	16.0	15.3					
		令和3年度	—	97.0	91.7	—	—			
6		令和元年度						%		
		令和2年度								
		令和3年度	—	—	—	—	—			
7		令和元年度						%		
		令和2年度								
		令和3年度	—	—	—	—	—			
8		令和元年度						%		
		令和2年度								
		令和3年度	—	—	—	—	—			
9		令和元年度						%		
		令和2年度								
		令和3年度	—	—	—	—	—			
10		令和元年度						%		
		令和2年度								
		令和3年度	—	—	—	—	—			